

2021/7/24-2

(うと Q 世話し 人類史開闢以来の大難問 後編)

しかしそれを果たさなければ早晩人類は「太古の昔、地球上を闊歩し、時の栄耀栄華を極め、到底滅びる事はないと思われた彼の巨大恐竜」同様に環境変化に適応できずに滅びてしまう事は、まず間違いない事実の様な気もしております。

何故ならこの世の最終的な「道理」(左の道理という言葉は国語辞典的な意味で使っております)は

「人間の都合に則った「所謂道理」とされがちで、例えばピンチをチャンスに変えた成功話、新規需要開拓のトリガー発見物語や見えざる手に導かれた予定調和説」等に置き換えられがちですが、実際にはそれとは全く関係のない自然科学的な

「物事の自律的メカニズム」

に則ったものにある様に思えてならないからです。

世界の何処と言わず、それは決して今の人間界にとって「都合のよいもの」ではないかもしれません。

いや、自分の予測では逆に「現下の金銭経済(世を治め、民を救うという本来の意味である「経世済民」の略語としての「経済」ではない現下の世界やその世界観)にどっぷり浸かった今の我々のあり方からすると

我々には極めて「不都合(マズいことになる)且つ不利益(損をするような)」ものであり、

更に又同じく、お手軽簡単便利な「快適さ」に慣れた今の我々からしても

「決して心地のよいものではない」

可能性の方が遙かに高い気がしております。

それこそ今までとは全く異なった、むしろ異質ともいえる感覚、感触、視点、発想に基づいた

「極めて不慣れな、ある種扱いにくい新基準とそのシステム運用又は運用システム」

になる可能性が大です。

しかしもう既に

「我々人類の永遠に続く右肩上がりの成長神話」

は虚妄だったとの結論が出かかっている。

なので、今までにない新しい目的や新基準を探さなくてはならない。

ではその新基準とは何か？

「適者生存」

適するためには今持っていて「価値あり」とされてきたことすらかなりの規模で捨て去らなくてはならなくなるかもしれない。それも半分か或いはそれ以上に。

このように今の人間界から見ると価値観の 180 度コペルニクスの転回を強いられるほどの大変革を要求されるような気が強くしております。

最後に

この「ニューノーマル探索サバイバル日記」の中間報告的な答えとしては、
我々の経済生活ではなく、我々自身が兎にも角にも最低限呼吸できる、その大々々前提である「地球環境にまずは適合」する
「適者生存こそがサバイバルの真髄」
であるような気もして参りました。

(続く)